

能登半島地震の「教訓」

災害の特性

半島に孤立地域が多数発生

- ① 被害情報が錯そう、**解明が遅延**
- ② 孤立地域に避難希望者等が**多数点在**
- ③ 道路寸断により**物資輸送に限界**
- ④ インフラの脆弱性、**断水の長期化**

教訓

- ① 情報の収集及び共有が**最重要**
- ② 各機関のあらゆる**輸送手段（陸路・海路・空路）の活用が重要**
- ③ 生活支援に係る代替手段（備蓄、応急浴場、仮設シャワー等）の**事前準備が必要**

時期的な特性

- ① **南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）**
（8月8日に発生した日向灘の地震時に気象庁発表）
- ② **阪神・淡路大震災から30年の節目**

南海トラフ巨大地震への「備え」

南海レスキュー訓練の目的

南海トラフ巨大地震を見据え、能登半島地震の教訓等を踏まえ、「**孤立地域**」における「**発災直後**」の「**初動対応**」を**焦点**とした実動訓練を実施して、災害対応能力の向上を図る。
この際、本成果を関係自治体等と共有し、じ後の災害対策に資する。

本訓練の位置付け

- 南海トラフ地震は**政府全体の対応**（自衛隊約11万人規模）
- 他方、「**発災直後**」は、全国からの支援部隊の**増援は未到着**のため、**中方面内の陸海空自衛隊が自治体、警察、消防等と連携して対応**するという状況での訓練
特に、「**孤立地域**」における「**発災直後**」の「**初動対応**」を**焦点**

主要な訓練項目（「**孤立地域**」への対応を焦点）

- ① 情報の共有
 - ② 人命救助活動
 - ③ 生活・インフラ支援
 - ④ 物資・人員輸送
- 特に「**発災直後**」の「**初動対応**」段階

期待する効果

- ① 平素からの「**顔の見える関係構築**」による連携強化
- ② それぞれの機能・能力の「**相互理解と尺度の保持**」
- ③ 適切な「**情報発信による防災意識の高揚**」

② 南海レスキュー訓練の前提となる「シナリオ」

凡例：赤字強調

概要

- 方面隊は、南海トラフの巨大地震が発生した際の部隊運用訓練のため、**全割れの状況を付与**
- この際、あらゆる可能性を想定した最大クラスの地震・津波を予想し、**被害想定は、近畿地方が被災大のケースを付与**

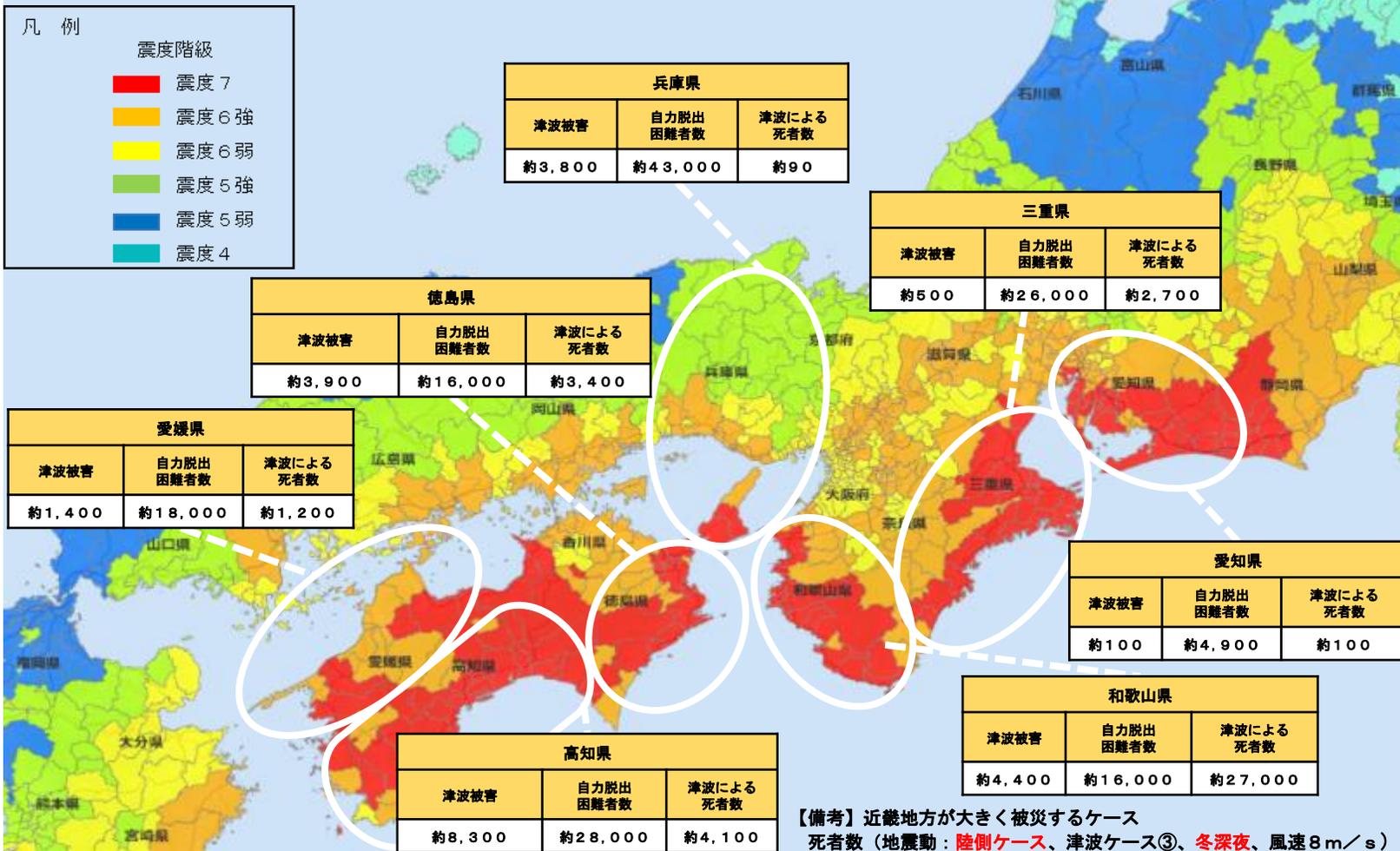
震度分布

被害想定概要及び震源・震度

【震源・震度】

震源	地震規模	最大震度（主要箇所）
紀伊半島沖 (全割れケース)	M9.0 (津波発生)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 震度7 <ul style="list-style-type: none"> 東海地区 愛知県、三重県 近畿地区 和歌山県、兵庫県(淡路島) 四国地区 香川県、愛媛県、徳島県、高知県 ○ 震度6強 <ul style="list-style-type: none"> 近畿地区 大阪府、奈良県、兵庫県、滋賀県 中国地区：岡山県、広島県、山口県

【最大震度7予想の府県の被災者数】



【被害想定概要】

被害想定	概要
	<p>東海、近畿南部、四国が大きく被災するケース</p> <p>1 建物等の被害 全壊及び焼失棟数 95万1千棟～238万2千棟</p> <p>2 死者 5万人～27万5千人</p>

【備考】近畿地方が大きく被災するケース
死者数（地震動：陸側ケース、津波ケース③、冬深夜、風速8m/s）

出典：「南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告）（中央防災会議：平成24年8月29日）」
 「南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等（第二次報告）及び被害想定（第一次報告）について（内閣府防災：平成24年8月29日）」
 「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災検討ガイドライン（内閣府防災：令和元年5月）」

③ 南海レスキュー訓練の「グランドデザイン」

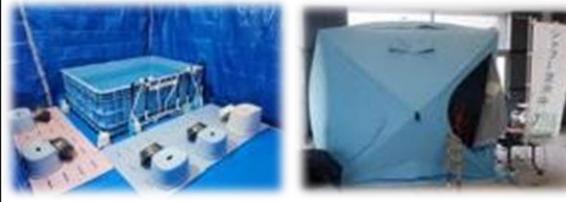
① 情報の共有（最重要）

場所	伊丹駐屯地、府県庁等
訓練内容	・SIP4D等を使用した情報共有 ・企業と連携したシステム通信



③ 生活・インフラ支援

場所	大阪城公園、パナソニックスタジアム イオンモール、淡路島等
訓練内容	・企業等と連携した生活支援 ・NPO法人等による生活支援の 紹介・展示



④ 物資・人員輸送

場所	広域物資拠点、舞洲、空港等
訓練内容	・海・空路からの物資・人員輸送 ・ドローンによる物資輸送



- 時期
令和7年1月13日(月)～17日(金)
- 場所
東海、近畿南部、四国等



② 人命救助活動

特殊救助エリア	場所	滋賀県
	訓練内容	航空機、特殊車両等による人命救助
孤立地域対応エリア	場所	和歌山県、三重県、高知県、 徳島県、兵庫県
	訓練内容	・海自と連携したシーベース ・航空機等を使用した人命救助
甚大被害エリア	場所	大阪府、三重県、愛知県
	訓練内容	・警察局等との共同救助活動 ・孤立地域への人員空輸等

主要訓練	参加部隊・機関
① 情報の共有	関係自治体、指定地方行政機関、通信事業者、中部方面隊
② 人命救助活動	関係自治体、指定地方行政機関、海自、空自、陸上総隊、中部方面隊
③ 生活・インフラ支援	関係自治体、指定地方行政機関、指定公共機関（電力会社等）、NPO法人、中部方面隊
④ 物資・人員輸送	関係自治体、指定公共機関等（物流企業、フェリー会社等）、海自、空自、陸上総隊、中部方面隊

④-1 南海レスキュー訓練に参加する「陸上自衛隊の主要な装備品」

区分	航空機	
装備品	CH-47	UH-1
概況		
参加数量	2	17
区分	航空機	
装備品	UH-2	UH-60
概況		
参加数量	1	2

※ 記載以外の装備品が参加する可能性あり。

④-2 南海レスキュー訓練に参加する「陸上自衛隊の主要な装備品」

区分	特殊車両	特殊車両	生活支援装備品
装備品	水陸両用強襲輸送車 AAV7	水際地雷敷設車	給水車
概況			
参加数量	5	1	所要数

区分	生活支援装備品		ドローン
装備品	炊事車	入浴セット	UAV汎用型 ANAFI USA
概況			
参加数量	所要数	所要数	所要数

④-3 南海レスキュー訓練に参加する「海上自衛隊の主要な装備品」

区分	船舶等	
装備品	輸送艦『くにさき』	訓練支援艦『くろべ』
概況		
参加数量	1	1

区分	船舶等	航空機	
装備品	掃海艇『あおしま』	エアクッション艇LCAC	US-2型救難飛行艇
概況			
参加数量	1	1	1

④-4 南海レスキュー訓練に参加する「航空自衛隊の主要な装備品」

区分	航空機	
装備品	UH-60	CH-47
概況		
参加数量	1	1
区分	航空機	
装備品	C-130	C-2
概況		
参加数量	1	1